

会議記録

会議名	令和5年度 第1回地域包括支援センター運営協議会	場 所	村上市役所4F 大会議室
日 時	令和5年7月27日(木) 15:00~16:00	参加者	別紙参照 ※欠席:土岐委員、神林支所(渡辺)
<日程>別紙参照			(記録:八幡)

開会

会長 — 西村委員
副会長 — 富樫委員

報告

- (1) 村上市地域包括支援センターの設置状況と評価指標(資料1)【事務局より説明】
65歳以上人口により職種ごとに配置人数が決められており、それはかろうじて満たしている。しかし、支所は他業務もあり専念できていない状況である。
- (2) 地域包括支援センターの活動報告と今年度の予定【①から⑦を事務局より説明】
- ・ 村上市地域包括支援センター月別事業表 令和5年度予定(資料2)
 - ① 介護予防・日常生活支援総合事業について(資料2-1)
 - ② 高齢者虐待防止事業について(資料2-2)
 - ③ 成年後見制度事業について(資料2-3)
 - ④ 包括的・継続的ケアマネジメント支援事業について(資料2-4)
 - ⑤ 生活支援体制整備事業について(資料2-5)
 - ⑥ 在宅医療・介護連携推進事業について(資料2-6)
 - ⑦ 認知症総合支援事業について(資料2-7)

質疑応答

【富樫副会長】

在宅医療介護連携のところで、タブレットによる情報共有(ときネット)の使用状況はどうか。

⇒【事務局】

地域包括支援センターとしては現在活用しているケースはない。

【佐藤委員】

訪問看護ステーションふる里さんが使用するので、訪問看護を利用時に活用している。また瀬賀医院も使っているので、そちらが主治医となっている利用者がいれば活用する。

【竹前委員】

村上総合病院は使用していない。

【齋藤委員】

関川村のケアマネジャーは、坂町病院入院時ときネットで情報提供する。村上市は紙ベースのやり取りが多い。

【青山委員】

ときネットの普及については、医師会を中心に取り組んでいるが、なかなか広がらない状況。個人でやっている医師も加入が少ない。便利なツールであり、普及してもらいたい。

【齋藤委員】

若年性認知症の支援について、その実態把握が難しいとあるが、そもそも対象となる人が少ないのか、関係する相談が少ないのか。

⇒【事務局】

相談が少ない状況。また、市内にどのくらい若年性認知症の人がいるのか把握できていない。

【齋藤委員】

業務の中で、実際に医療機関から患者さんに包括支援センターを紹介するが、抵抗感強くつながりにくいと感じている。なにかにつながってほしいし、ぜひ協力したいと考えている。

【菅原委員】

生活支援体制整備について、ささえ～る隊の活動を市民は知っているのだろうか。特に新しい町内では付き合いがないところも多いし、まとまりに欠けるところがあると思う。

また認知症の事業で GPS の活用が少ないとの報告だが、周囲が心配しても、嫌がってサービスや事業につながらない人はいる。どう対応してよいかわからない。

⇒【事務局】

生活支援体制整備事業については、住民主体の活動につなげるために働きかけが難しい。感染症対策が緩和され、地域の集りや行事が増えると思われるので、周知に努めたい。

認知症の初期段階で、自分自身に違和感を持つことが多い。周囲から指摘されて、認めたくないと感じたり不安になったりする。そうしたことを理解したうえで、いつもどおり接していくことが大事になる。GPS 等のサービス利用については、一人ひとり状況が異なりタイミングがあるので、まずは地域の方の見守り支援をお願いしたい。

【伊與部委員】

いろんな事業をされていて、皆さん一生懸命に周知活動をやっていると思うが、一般の人はわからない、市民に通じていないと思う。効果が上がっていないと感じているはず。もっと目線を市民に向けて周知方法を考え、取り組んでほしい。

【西村会長】

出前講座なども活用して周知してはどうか。

⇒【事務局】

実際に当事者にならないと、自分事として考えられないという側面はある。こちらも待つだけでなく、積極的に出前講座を売り込んでいきたい。

【加藤委員】

どんどん住民に PR してほしい。

【山下委員】

地域リハビリテーション活動支援事業の令和 4 年度実績を教えてください。

⇒【事務局】

在宅リハビリ指導 8 件、リハビリ講習会（介護事業所向け）1 件、個別指導（介護事業所向け）6 件となる。

その他

特になし

※ 第 2 回目は令和 6 年 3 月に予定